

教科 【 技術 】

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組

- ・教科の特性である身近な生活より題材を設定することができることから、授業の導入時に課題を提示することが容易である。毎回、前回の振り返りを発表させるとともに、本時の課題は興味・関心を抱くよう提示する。
- ・後期はもの作りの実習、演習を中心に展開することから、生徒の多様なアイデアが生み出せるよう設計に時間配分を多めに設定し、作品の完成に充実感をもたせる。
- ・実習の進度に差が生じるため、実習到達度シート（振り返りシート）を確認しながら、進度別グループや課題別グループを随時特設しながら、協働製作をしながら自己調整を図る。

視点2

読み解く力の育成

- ・もの作りでは多くの工具、道具、機械を使用することから、その仕組みや用途を教科書から学び（Input）、実際に実習で取り扱う際は考えながら使用する（Output）ことを継続的に行う。そのため、ICT等を活用し短時間に振り返ることができるよう教材の準備を整える。
- ・進度別グループや課題別グループ内で相談したり確認したりできるように実習状況を把握するとともに、グループ活動を通して工夫点や疑問点をまとめさせ、他者へ発表する場を設ける。
- ・作品完成後は、自己評価を発表させる。

視点3

総合的な学習の時間との連携

- ・今年度の総合のテーマは起業家教育と職場訪問および体験である。ともに将来を考える上で疑似経験させることがねらいなので、教科のなかでも「将来は自らが何かを生産する人になる」ことを理解させ、材料加工や生物育成やエネルギーの活用、情報教育の基礎やしくみを学び、どのように発展させていけるかをまとめの時間に考え発表させる。
- ・今後外部人材との接点が多くなることから、日頃の授業規律や言語活動にも注目させ、社会に踏み出すための基礎を身に付けさせる。